

平成 19 年 5 月 28 日

定期検査中の 2 号機圧力抑制室内における部品の欠落
および異物の確認の調査結果について

東京電力株式会社
福島第二原子力発電所

定期検査中の 2 号機において、圧力抑制室内のスプレイノズル*¹の交換作業を行っていたところ、4 月 12 日午後 1 時頃、スプレイノズル先端部の部品 1 個（直径約 2 cm×長さ約 1 cm）が欠落していることを確認しました。また、別のスプレイノズルの取り付け部からナイロン製のたわし（大きさ約 10cm×約 5 cm・厚さ約 5 mm）を発見し、回収しました。

[\(平成 19 年 4 月 12 日お知らせ済み\)](#)

調査の結果、以下のことがわかりました。

- ・ 当該スプレイノズルを含め他のスプレイノズルについても、先端部の部品の締め付け状態を確認したところ、締め付け力にばらつきが確認されたことから、当該部品の取り付け時に締め付け力が不足していた可能性があること。
- ・ ナイロン製のたわしは、弁やポンプ等の分解点検時に金属面の付着物を除去する際などに使用されるもので、スプレイノズルの上流にある残留熱除去系*²の弁およびポンプ等の分解点検時に混入（混入時期については不明）したと考えられること。

スプレイノズル先端部の部品欠落の対策として、当該号機は今定期検査において、先端部の部品がない形状のものに取り替えます。

また、先端部の部品があるスプレイノズルを使用している号機については、計画的に締め付けを実施します。

弁およびポンプ等への異物混入防止対策として、分解点検後に行う内部確認を今後も引き続き実施することとします。

以 上

* 1 : 圧力抑制室内のスプレイノズル

圧力抑制室内の圧力、温度等が上昇した際に水を注入するためのノズル。ノズルは 60 個あり、ノズル先端部の部品（7 個）から水を注入する。運転中に月 1 回の定例試験において、系統の健全性を確認している。

* 2 : 残留熱除去系

原子炉停止時冷却系として、原子炉を停止した後の燃料の崩壊熱を除去（燃料の冷却）するとともに、非常時には原子炉水位を維持する系統で、低圧注水系と格納容器スプレイ系にも使用している（A系，B系，C系の3系統）。